

舷 想

第34号



海事代理士の日
6月1日

一般社団法人 日本海事代理士会

目 次

1. 巻 頭 言	・ ・ ・ ・ ・	1
2. 本部活動報告	・ ・ ・ ・ ・	3
3. 日本海事代理士会創立 50 周年記念フォーラム 開催報告	・ ・ ・ ・ ・	7
4. 委員会だより	・ ・ ・ ・ ・	9
5. 業務情報	・ ・ ・ ・ ・	16
6. 支部だより	・ ・ ・ ・ ・	19
7. 会員の声	・ ・ ・ ・ ・	30
8. 海政連だより	・ ・ ・ ・ ・	40
9. 会員動向	・ ・ ・ ・ ・	44
10. 編集後記	・ ・ ・ ・ ・	45

巻 頭 言 (近況雑感)

副会長 二木 祥一

平素より、当会の活動へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、去る10月17日に開催されました当会創立50周年記念フォーラムへのご参加、裏方に従事されました皆様に厚く感謝と御礼申し上げます。同フォーラムは後援の国土交通省はもとより各方面から好評をいただくことができました。何より嬉しく思いましたことは来場者から、「安全運航への取組を再認識した」、「安全は常識ではなく追求すべきものだと思った」などのお言葉を頂戴できたことです。フォーラムの模様についてはこのくらいにして広報委員会他からの報告にご注目ください。

さて、舷想18号に“AIは船の夢を見るか”という拙文を書かせていただきました。当時Singularity（技術的特異点）は2045年頃であると言われていました。これはAGI（Artificial General Intelligence：汎用人工知能）により達成するものとされていましたが、現在では5年後にはAGIが実現し、20～30年後にはASI（Artificial Super Intelligence：人工超知能）が現れるのではないかとされています。今使える生成AIにおいても自然言語による曖昧な表現で検索、文書、画像・映像の生成ができます。一方、AGIは人間のように自律的に学び、判断し、創造するということをやっている、ASIに至ってはもはやSFのそれということです。驚愕をもってChatGPTが登場したのは2022年のこと。凄まじいスピードです。

前置きが長くなりました。AIが我々海事代理士とどのように関係していくのでしょうか。すでに、日常業務に生成AIを活用されている事務所も多いことでしょう。弊所もAIリーガルサービスをしばしば利用しています（「AI等を用いた契約書等関連業務支援サービスの提供と弁護士法第72条との関係について 令和5年8月 法務省大臣官房司法法制部」は知っておくべきですね）。脱線しました。海事代理士事務所の業務として設計事務所や造船所などからの相談対応がありますが、自動運航船・自律運航船に関するものとしてAIによる避航機能をはじめとする安全面への対応と検査受検についての相談事例を挙げることができます。オートパイロットで手慣れた相談者であってもAIが絡むと設計検査や製造検査、定期検査に入る前にどう検査に臨むべきか悩まれるわけです。船舶検査自体は「自動運航システム等の検査の方法（令和7年6月30日 国海査第100号の2）」が制定されていますのでこれに従うことになりますが、例えば、極端ですが行き交い船どうしの距離が0.3mを許容する機能というのはどう評価されるでしょうか。AIにとっては安全距離であっても海技者はどうみるでしょうか。設計者は0.3mで行き交う事態もAIが安全と判断した結果であると主張するも、一般には危険航行と判断されることの方が多数派だと強く思います。また、着岸時の距離はどこまでAI操船又はAI支援に任せてよいのか。港や施設ごとの制限解除はあるのか。黎明期であるがゆえに様々な課題が発生するのです。これらをひとつひとつ整理して、時には専門家の知恵を借りながら解決の糸口を探っていく必要があります。おそらく技術の進歩に

ともなって検査官の判断も変化していくのだと思いますから、こちらも必死になって最新情報に食らいついています。自動運航船・自律運航船と言っても本船、U S V、U U V、その他のドローン類など複数の態様があり用途も様々、課題も様々であってこのような相談は当面のあいだ増え続けることでしょう。AIそのものに精通することも必要かもしれませんが、きわめて重要なのはAIの使い方や限界、リスクを理解し検査官との対応力を磨くことだと考えます。海技者もしくはその経験がある海事代理士であれば使用されるAIモデルを評価し説明できるアドバンテージも。一般的な海事代理士業務ではないと思いますが船舶所有者から自動運航船・自律運航船と海上衝突予防法、港則法との関連について相談を受けるケースも出てきました。技術や制度が変わるとき新たな仕事が発生するものです。

最後に、この拙文を書いているいま、建造量倍増を目指し、国内17社でつくる業界団体が3500億円の設備投資を表明するというニュースがありました。新政権も積極的な財政出動を打ち出しており造船ニッポンの復活に期待したいと思います。対米支援にも期待しています。AGIに関しては代替されたり使われないように意識してゆきたいところです。本会創立50周年を迎え気持ちも新たに本会一丸となって実務能力の研鑽と向上に努めて参りたいと存じます。最後までお目通しいただきありがとうございます。



舷想は会員限定の広報誌です
続きはこちら



<https://jmpcaa.org/company/>

海事代理士の日
6月1日